



11月に入ったとたん気温が下がって急に季節が秋をこえて冬へ進んでいっています。大人は、寒さに敏感ですが、子どもたちは、「少し走ると汗だくになるんだよ」とTシャツで出かけている姿を見ると、たくましく育っていると思います。

## ～実体験を通して大きく成長しています。～

10月11日とさんま焼き、お羊振子、焼き羊と食欲の秋も清々  
 することできました。さんまは、久しぶりに昼食に出すことができ、  
 年長さんは、初の火おこし体験をしました。年長になってやっと自分たちが  
 火おこできるとほろき、ていまいにか、火の熱いや煙で気持ちりが折れて  
 しまったようですが、2回目の焼き羊では、最初の体験から対策を  
 考えたようで「大丈夫がんばるよー」とほろき、ていまいか、最初から上手に  
 出来るわけではないので困難な体験こそ、貴重だと思ひます。  
 失敗経験と怖がる子どもが増えていると言われています。特に若い  
 世代は、周リから何か言われると否定されたこととらえる傾向が  
 あるようです。結果にとらわれることなく、「やってみたい」と挑戦  
 していく中で、考えたし、ふり返ってまたし、自分自身の経験として  
 積み重なっていきます。思ひたように出来ない事の方が、世の中には  
 あふれていると思ひます。最初からあきらめてしまうのではなく、  
 こんな経験してみたいと感じる心が育、ていってほしいと思ひます。  
 日々の中の色々な実体験をこれから大事にして子どもと共に  
 感動や喜び、時には、くやい思ひも感じあ、て大人も一緒に  
 成長していきたいと思ひました。

## ～平和への願ひ・ノベル平和賞～

10月に2024年のノベル賞の発表がありました。  
 物中のノベル平和賞が日本原水爆被害者団体協議会が  
 受賞することになりました。核兵器のない世界を実現するた  
 めの努力と核兵器が二度と使用されるはならないことを証言に  
 よて示してきたことが受賞の理由だそうです。この団体が  
 68年間にわたリ世界に訴え続けてきた活動がよリ広く  
 認め、ていただけ、たのだと思ひます。核兵器の開発や保有など  
 法的に禁止する核兵器禁止条約の交渉会議では、この団  
 体が中心とな、て約300万人分の署名を集、採択を後押、し、  
 その後、全ての国が条約に参加することを求めて、「ヒラツキ  
 国際署名」とい、およそ1370万人分の署名を国連に提出  
 され核兵器禁止条約は2024年1月に発効されました。  
 まさに、この条約に大きな貢献をつ、つてきた団体です。  
 その団体のある日本は残念ながら、この条約の批准国では  
 ありません。政治的な利害関係から国際的に主張でき  
 ない日本の立場もあるといわれていますが、将来、子どもたちが  
 生きていく世界がどのようにあ、てほしいか、私たち大人が  
 しつ、つとらえていく必要があるのだと思ひました。

保護者もこの一筆二筆も交えていく  
 力にな、てい、ます。

飯沼雅美